

「ノアとの契約」

2020年11月16日

神はノアと、彼と共にいる息子たちに言われた。「私は今、あなたがたと、その後続く子孫と契約を立てる。また、あなたがたと共にいるすべての生き物、すなわち、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣と契約を立てる。箱舟を出たすべてのもの、地のすべての獣とである。(創世記9章9節～10節) 私は雲の中に私の虹を置いた。これが私と地との契約のしるしとなる。(創世記9章13節)」

ノアとその家族、そして、全ての生き物の雌雄一つがいは箱舟によって、大洪水の裁きから救われた。箱舟から出て来たノアは、真っ先に祭壇を築き、焼き尽くすいけにえを献げた。神は宥めの香りを嗅ぎ、二度と命あるものを打ち滅ぼすことはしないと心に決めた。神はノアと息子たちに、「産めよ、増えよ、地に満ちよ。あらゆる地の獣、あらゆる空の鳥、あらゆる地を這うもの、あらゆる海の魚はあなたがたを恐れ、おののき、あなたがたの手に委ねられる」と祝福された。そして、命のある動き回る動物が食料と言われた。今までは、青草と木の実の菜食であったが、肉食が許されることになった。ただし、肉は命である血と一緒に食べてならないと禁止された。血は命を支えるもので、命は神が支配される。血が付いたままの肉を食べることは、神を犯すことだから禁じたのである。もう一つは、命である血が流された場合、血の償いを求める。獣にも償いを求めると書いてあるが、「人に、その兄弟に、命の償いを求める」ということが主眼であろう。「人の血を流す者は／人によってその血を流される。神は人を神のかたちに造られたからである。」人の血を流すことは、神のかたちに造られた尊厳ある人の血を流すことであるから、血を流してはならない。もし流したならば、血で償わなければならない。殺人者は死刑になるということで、世界の常識となっていた。しかし現在、正義と秩序を守る国家による正当な裁判であっても、人を死刑にする権利はないと死刑制度の廃止が広がりつつある。出エジプト記21章12節に「人を打って死なせた者は必ず死ななければならない」と規定されているように、聖書は一貫して、殺人者には死刑を容認している。神は、大きな祝福を約束されたが、神の支配に関わる血については、厳格に禁止されたのである。

「神はノアと、彼と共にいる息子たちに言われた。『私は今、あなたがたと、その後続く子孫と契約を立てる。また、あなたがたと共にいるすべての生き物、すなわち、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣と契約を立てる。箱舟を出たすべてのもの、地のすべての獣とである。』」神はノアと契約を交わされ、それは、全ての生き物を含む契約である。聖書は「契約」という概念で貫かれている。契約は、甲と乙の間で要求を出し合い、合意して契約が成り立ち、互いの共生を保障するものである。神とノアの間での契約は、神が洪水によって地を滅ぼすことはもはやないという申し出をされただけで、ノアには血に関する禁止だけで、負わなければならない義務は一切ない。神からの一方的な祝福の契約である。そして神は、「私は雲の中に私の虹を置いた。これが私と地との契約のしるしとなる」、また、「私はそれを見て、神と地上のすべての肉なるあらゆる生き物との永遠の契約を思い起こす」と、契約の遵守を約束された。神の恵みの契約のしるしとして、天と地を結ぶ、雲の中の虹を伝えたこの個所は、旧約聖書の中で最も美しいシーンではないか。

イスラエル旅行に行った時、エルサレムの街にかかった大きな美しい虹を見た。神がノアに一方的に伝えた恵みの契約の場面が彷彿と心に浮かんだ。